

## 『無期限の鏡』

一人になれる海を探していた

夏の太陽は強過ぎて  
熱く焼けたはずの両腕が  
ひりひりと凍っていくよな錯覚に落ちてゆく

一人になれる海なんてなくても  
その水面が身体を包むから  
私は独りになった

青色なのか  
碧色なのか  
それとも無色透明なのですか

海は鏡  
私は鏡に映される  
瞳の奥まで見てください